

日本語部門では、本学に所属する外国人留学生を対象に「調べたことを音声入りのパワーポイントにまとめ、6分未満で自動再生できる形式で提出するという形で実施しました。応募者は学部1年生2名、3年生3名、4年生3名、協定留学生5名の合計13名でした。応募作品のテーマはさまざまで、どれも素晴らしいものでした。今回入賞した3名について以下に紹介いたします。

3位に入賞した協定留学生のギユキンさんは、日本のお正月について調べ、台湾と比較した内容をわかりやすくまとめていました。審査員からは、「台湾と日本の正月について分かりやすく説明している。とても親しみやすい発表で楽しかった。もう少し作者なりの考察があったら、もっとよかった。なめらかな日本語で発表が進められていた。スライドがテーマに合っていて、きれいだった。台湾のお正月についてもっと知りたくなった。」といったコメントがありました。

2位に入賞した協定留学生のシュウトウさんは、高齢化している引きこもりの8050問題を取り上げ、その原因を追究し、解決策を提案した発表でした。審査員からは、「論拠ある説明が素晴らしく、説得力のあるものに仕上がっている。発音が聞きやすく、「発表」としての完成度が高い。問題を客観的に可視化している点がよかった。話すスピードも良く、内容もわかりやすかった。」といったコメントがありました。

1位に輝いた国際コミュニケーション学部国際3年のイハミンさんは、日本で生活するうえで最低限必要な漢字はいくつなのかについて調査・考察し、その結果を述べた発表です。審査員からは、「問いを立て、その問いに答えるための論拠をあげた「研究」になっている。漢字の読み方が時々違うのが気になったが、大変素晴らしい発表である。自身の疑問に問いを立て、適切な資料を基に調査・考察を行い、結論を出すという構成が素晴らしい。」といったコメントがありました。

イハミンさん、シュウトウさん、ギユキンさん、入賞おめでとうございます。